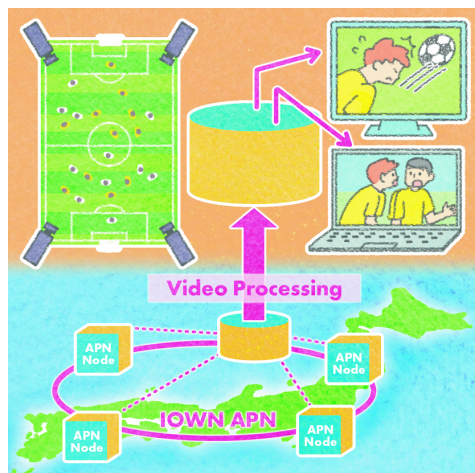


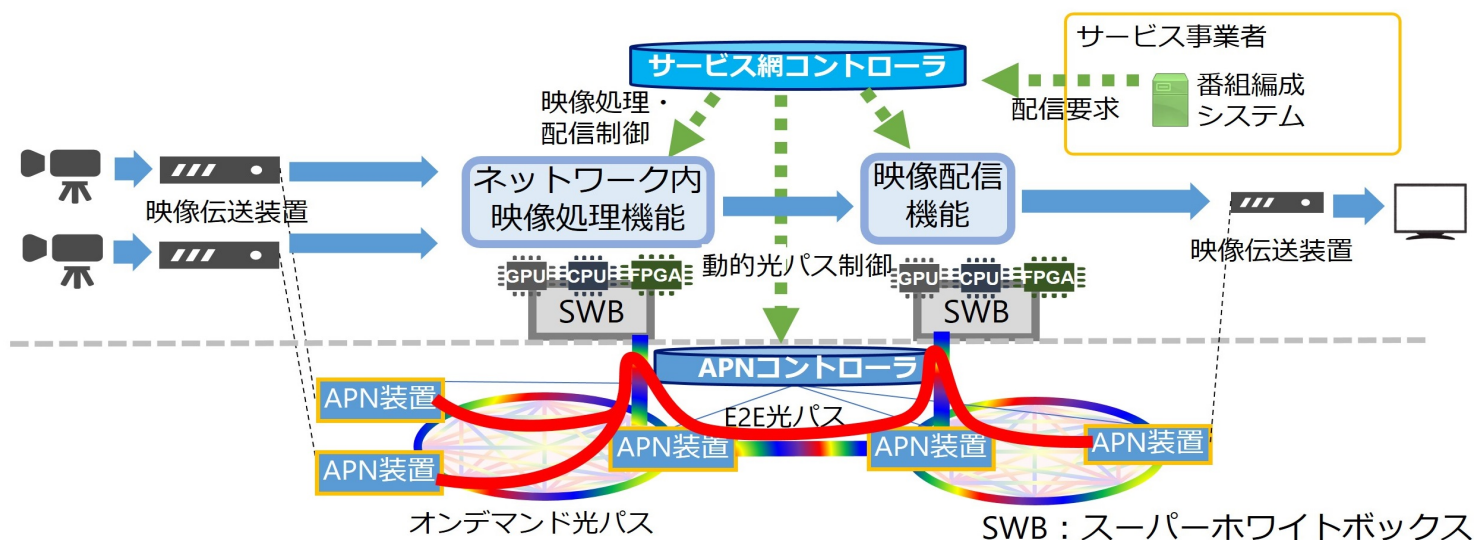


背景

これまでの光伝送ネットワークは動的なパス開通ができず、ニーズに応じた柔軟なサービス提供が困難でした。また、映像の編集や配信処理における処理遅延が大きく、遅延を感じないようなリアルタイム性の高いライブ配信が困難でした。

成果の概要

さまざまなユースケースに対して光パスをオンデマンドに利用できる技術、ネットワーク内のプログラマブルな装置において、通信されるデータのまま映像処理を行う技術、を開発しました。これにより地方の放送やスタジアムからのリアルタイム性の高いライブ中継を実現します。



技術のポイント

- アクセス、メトロ、コアを光で直接接続し、大容量・低遅延・低ジッタのエンドエンドの光パスを、さまざまなユースケースに対してユーザが異なるグレードでオンデマンドに利用できる技術
- APN内に配備された、プログラマブル光映像スイッチにおいて、映像ブロック単位での処理により、ネットワーク上での映像加工、編集などを可能とする技術
- 事業者からの編成情報やユーザからのパーソナライズ要求をもとに、オンデマンドにネットワークの経路制御を行うことで、ネットワークリソースの利用を効率化する技術

この研究がもたらす未来

大容量リアルタイム通信基盤を自由自在に使うことができ、これまでにないリアルタイム性の高い放送、配信サービスを実現、高臨場でインタラクティブな映像体験が可能になります。

出展企業

日本電信電話株式会社

問い合わせ先

rdforum-exhibition@ml.ntt.com